

市報

いしかわ

2月15日号

(毎月1日・15日発行)

No.465

●平成3年12月の市内交通事故 発生件数36(384)、死者1(15)、負傷者43(458)()内は平成3年1月からの累計



▲石岡の風景⑩ 杉並小学校の登校風景

石岡市消防出初式が、1月10日

石岡小学校の校庭で開催されました。

会場には、消防職員、防火クラブ員、関係者約300人が集まり、人員服装点検・機械器具点検の後、消防団員の表彰が行われました。分団関係者の功労賞は次のようにあります。(敬称略)

■市長表彰

- ・30年功労章 倉橋直太郎、小松原実
- ・20年功労章 常盤貴、岡崎直行、関町市男、篠村光男、山田重雄、氏家孝太郎、篠田和夫、塚本豊廣、木内昇
- ・10年功労章 島田幸生、大高政憲、杉村好美、栗原茂、長谷川文夫、秋山誠二

平成4年2月5日
第303号
取扱

■県知事表彰

- ・30年功労章 浅野守男、倉橋直太郎、小松原実
- ・20年功労章 池田守、篠田和夫、平澤之信、木内昇、小貫治

緊急連載「いしおかゴミ戦線」



▲粗大ゴミや不燃ゴミの中には、危険物がいっぱい。

捨てられたガスボンベの怒り

ごみ処理場で不燃ゴミの処分を担当している伊藤富夫さんの怒りは、なかなか治まりません。

「このプロパンガスのポンベを見てくださいよ。中にガスが入ってるんですよ！ これを見ないでプレスしたり、焼却炉へ入れたりしたら、大爆発ですよ。まったく危ないからやしない」不燃ゴミ置場の片隅には、プロパン受入れホッパーが爆風で折れ



の一角に、市授
産所の付設保育
所としてスター
トしたのでし
た。団塊の世代
の子供たちが、
ここで育ちまし
た。

球や柱時計・足踏みのオルガニズムなど、懐かしい物が目を引きます。

開園した歴史を持っています。かつては、明治四十一年十月・石岡幼稚園（園主・加島鈎太郎、土橋町）、大正七年十二月・石岡愛友幼稚園（園主・鈴木千代松、土橋町）、大正十四年四月・子供の家（園主・森田とみ、国分町）などもありました。

月一日に市立高近幼稚園、昭和五十年四月に東大橋の東幼稚園がそれぞれ開園し、市立幼稚園は現在二つです。一方、私立幼稚園は六つあり、吉田幼稚園は大正八年五月十六日香丸町に

「それと、家族向けの広報誌『ロイヤル通信』の編集を担当しています」

りませんでしたが、ここへ来てお年寄りと触れ合う機会が増え、色々なことを知りました。

A black and white portrait of a young woman with dark, shoulder-length hair and bangs. She is wearing a white lace-collared shirt. The photo is a head-and-shoulders shot against a plain background.

写真で綴る

する人間にとつては命がけの事態に発展しかねません。ですから、ゴミを出す人にお願ひしたいのは、危険な物は出さないことはもちろん、中身が判断できるように出してほしいということです。

例えば、割れたガラスが危ないからといって、嚴重に包んでしまうと、かえって開くとき危険なのです」と最後には切実な訴えです。

たちの身の回りは、再生利用（リサイクル）の思想で貫かれていました。生活から出るゴミの量は少なく、その種類は生ゴミとボロ・紙類・ビン缶類・陶器などでした。

鉄類は廃品回収業者が引き取り、古鍋は「鉢掛屋」が修理し、金修繕・キセルのラオ仕替え・下駄修理・刃物研ぎなどの職業が町のあちこちで見られました。誰もが物を大切に使っていたので、粗大ゴ

ミなどはめったに出なかつたのです。 東京オリンピックを過ぎたころから、次第に物が増え捨ての時代となり、ゴミが増大しました。しかも、ゴミは複雑な形態となり、危険で厄介な物体としてのさばかり始めたのです。

「自分の視野から消えてしまえば、あとはどうなろうと構わない」という考えが、現代人の心を触んでいます。ゴミ

(3月15日号／第3章「正目
ゴミ大パニック」に続く)

に溶け込んでいます。
——仕事については?

まわり談話室

二二

ひまわり談話室

92

いることが多いですね

する人間にとっては命がけの事態に発展しかねません。

ですから、ゴミを出す人にお願ひしたいのは、危険な物は出さないことはもちろん、中身が判断できるように出され

たちの身の回りは、再生利用（リサイクル）の思想で貫かれていました。生活から出るゴミの量は少なく、その種類は生ゴミとボロ・紙類・ビン缶類・陶器などでござる。

東京オリジンピックを過ぎたころから、次第に物が増え使い捨ての時代となり、ゴミが増大しまって、しかも、ゴミなどはめったに出なかつたのです。

本人が築いてきた精神的文化も捨てているのかも知れませ
ん。——ゴミ処理場の危険で

ロイヤルハウス石岡
から老人ホーム・ロイヤル

今年の抱負は、『笑顔を忘れること』に決めました。

3月1日 石岡ボランティアの祭典

“私たちのまちを私たちの手で”をスローガンに、石岡ボランティアの祭典を開催します。

☆日時 3月1日 午前10時～

☆会場 石岡市福祉会館

☆内容 お好み素人演芸会、福祉バザー、もぎ店、ちびっこ映画館、各種ボランティア活動展示コーナー、福祉の店作品展示・即売コーナー、福祉情報案内コーナー、ボランティア活動実践協力校活動展示コーナー、福祉体験コーナー、福祉機器展、健康相談コーナー

*詳しくは、石岡市福祉会館へ。

☎ (22) 2411

ボランティアの祭典にご協力を

社会福祉協議会では、石岡ボランティアの祭典の一日ボランティアとチャリティーバザー用品を募集しています。

ボランティアの祭典をお手伝いください。また、チャリティーバザーを計画しています。バザー用品（日用雑貨品、食料品、衣類、など）を提供していただければ幸いです。

ご協力をお待ちしています。

[一日ボランティアとバザー用品募集]

☆受付期日 2月10日～25日

☆受付場所 石岡市福祉会館

*問い合わせは、社会福祉協議会（福祉会館内）へ。

☎ (22) 2411

市の入札に 参加希望の方へ

市役所管財係では、平成4年度・5年度分の物品納入などの入札参加申し込みを受け付けています。

◇締め切り 2月29日
◇提出書類 各書類は、B5版でブルーのファイルで綴じ

情報ネットワークのコーナーでは、平成2年度“家庭の日図画コンクール”的入選作品24点を紹介してきました。

今回で終了します。

す。働きながら高校を卒業できます。

◎願書受付期間

3月2日～30日

（願書は、72円切手を貼った返信用封筒を同封して請求してください）

（1）県内に居住または勤務する方。

（2）中学校またはこれに準ずる学校を卒業した方、または3月卒業見込みの方。（新制中学校を卒業している方は、水戸南高校にお問い合わせください。）

（3）応募資格

県学生寮 男子入寮生募集

☎ 0292 (47) 6173

県立児童センターの 土笛づくり

（6年生）

百人

☆応募方法 学年、学校名、男女、保護者、電話番号を記入）で、児童センターこどもの城「おもいっきり16宛」へ。

☆期日 3月7日～8日

☆場所 県立児童センター こどもの城（〒311-13 東茨城郡大洗町後釜824 9-4）

☆締め切り 2月22日

☆参加費用 2千円

※詳しくは、県立児童センタ

一ことどもの城へ。

※詳しくは、県立児童センタ

一土浦労働基準監督署へ。

☆対象 県内の小学4年生



▲小松崎淳君の作品（関川り）

2月は健康診断 推進運動月間です

☎ 0292 (66) 3044

2月は、「職場における健
康診断推進運動月間」です。
労働省では、中小企業で働く
労働者の健康診断の実施を呼
び掛けています。

キエフ・バレエ団&管弦楽
団による『シンデレラ』全3
幕を開催します。

◇日時 7月9日
午後6時30分 開演
◇会場 茨城県立県民文化セ
ンター 大ホール
◇入場料 S席1万円
A席9千円、B席8千円
C席7千円、D席6千円
◇2月12日前午前8時30分から
前売開始

※詳しく述べは、茨城県動物指導
センターへ（笠間市日沢47）
（1）指名競争参加申請書（市
様式または全国統一様式）
（2）登記簿謄本（個人の場合は
身分証明書）
（3）納税証明書（市内の方は完
納証明書）

（1）指名競争参加申請書（市
様式または全国統一様式）
（2）登記簿

まちの できごと



▲常陸風土記の丘、入園10万人超えました(1月12日)

平成2年8月にオープンした常陸風土記の丘の入園者が10万人を超える。10万人目は、取手市の小島祐二さん(53)。ドライブ中の通りがかりに訪れた小島さんは、「素晴らしい拝見させていただきました」との感想でした。



●高木 咲子 ちゃん
一歳十ヶ月
泉 町
●吉澤文雄さん(80)が、紹介褒章を受賞しました。これは、文化財の保存・整備へ尽力したことに対する贈られたもので

いばらき大ふるさと博

……2月21日～26日……

古代から「常世の国」といわれた茨城。その豊かな風土に育まれた郷土の物産・料理などを一堂に集めた“第9回いばらき大ふるさと博”を開催します。

茨城の技と味をお楽しみください。

◇期間 2月21日～26日

◇会場 水戸京成百貨店 8階催事場

◇内容

[ふるさと物産展]

郷土の物産の展示・即売。あまり知られていない各地の食品・工芸品も集まります。

[いばらきの郷土料理展示会] 2月21日・22日

郷土に根ざした会席料理、一品料理などの展示。料理の実演、解説・相談。試食・販売のコーナーもあります。

[春の洋らん展] 2月23日～26日

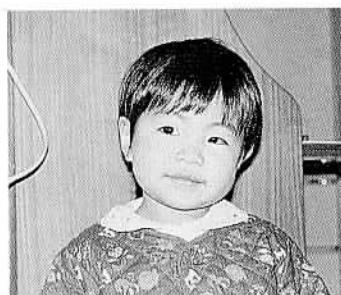
蘭科協会の会員が育てた洋らんを展示。

期間中(2月21日～26日)郷土芸能の披露、ミス市町村の案内、特産品などの無料配布があります。

※詳しくは、県商工労働部観光物産課へ。

☎0292(21)8111内線3372

ここにちは 赤ちゃん



●高木 咲子 ちゃん
一歳十ヶ月
泉 町

いつもご機嫌な咲子ちゃんは、人見知りをしません。眠くなると、ふとんへ行つておねんね。自分のことはひとりでできるようになりました。

一番楽しいのは、近所のお友達四人と遊んでいるときです。お母さんの裕子さん(29)手作りの服を着て、お母さんの笑い方を上手に真似ちゃいます。

大好きなミカンをほおばる咲子ちゃんに、お父さんの功さん(35)とお母さんから、「強い子、良い子、お茶目な子になつてね」

「どうしたんだ?」と聞くと「宿題やるの忘れたの。今から起きてやる」と涙声。「もう遅いから、明日一緒に早起きしてやろう、必ず起こすから」と私は、なだめて寝かしつけました。この日は、夫婦で近所のお葬式の手伝いに出ていたため、子供たち二人がお留守番。成人日の休日、好きな絵を描いたり本を読んだり、友達と遊んだりしているうちに、宿題を忘れてしまったようです。

翌日の朝、目覚まし時計の音で起きた長女は、赤いハンテン姿で机に向かい、無事宿題を終わらせて元気に登校。宿題を平気で忘れた自分とは大分違うな、と小学生時代を思い出し苦笑しました。

その日の夕方のこと。市内の学習塾から出てきた小学生が、飲みかけのジュースのビンを歩道へ投げ捨てる光景を見ました。歩道のタイルにぶつかって割れたビンと流れ出る液体、知らんぷりで立ち去る小学生の後ろ姿を見つめながら、私は急に睦月の風の肌寒さを感じたのでした。